

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	南大塚保育園
施設所在地	東京都豊島区南大塚2-36-3
法人名	社会福祉法人 豊島区社会福祉事業団

## 1. 活動のテーマ

&lt;テーマ&gt;

「音」(2年目)

- ・民族楽器に触れる ・和楽器に触れる
- ・体を動かして音に触れる ・ドラムサークル開催
- ・身近な音に耳を傾ける ・音や声を集める。
- ・音に関わる玩具に触れる(0～2歳児のみ)
- ・ピアノを通じて和音に触れる

&lt;テーマの設定理由&gt;

「音」は、2年目の取り組みになります。2年目の取り組みを職員で話していく中で「音」へのアプローチは多岐にわたり、いろいろな活動のアイデアが職員から出てきました。初年度の振り返りから子どもの姿を考え、継続して取り組むことにしました。昨年は民族楽器に触れ、その振り返りから、民族楽器の取り組みも継続していくほか、和楽器を取り入れ、音の違いや、楽器の鳴らし方など、子どもたちが「音の鳴り方」に対して興味が深まると考えテーマとして設定しています。

## 2. 活動スケジュール

- ・民族楽器を取り入れ、子どもたちが楽器に触れる機会をもつ  
打楽器に触れて関心を持ち、楽器を自由に手にすることができる環境で楽器に親しみを持ち活動を重ね、3月には外部講師を招いたドラムサークルに参加し友達と音を合わせる楽しさを感じる。(活動①)
- ・和楽器制作を行い、実際の楽器の聞き比べを行う。
- ・太鼓の大小による音の違いの聞き比べを行う。(活動②)
- ・身近なものの音集めや、音作りなど、音や声を集めることを楽しんだりまた、音が重なる面白さに触れる。(活動③)
- ・身体を使って音を出す楽しみに触れる。(活動④)
- ・和音に触れ、聞き心地の良い音とそうでない音に気づけるようにした。
- ・電子ピアノに園児が自由に触れられるようにした。(活動⑤)
- ・木の玩具など電子音とは異なる、自然な音の玩具に触れ、鈴や木などの小さな音にも耳を傾けて遊ぶ(乳児 0～2歳 活動⑥)

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 活動①に対して

- ・ホール内に楽器専用の棚（楽器棚）の設置。楽器を入れるケースには楽器の名前と写真を大きく貼り、子どもが取り出しやすい高さに設置した。
- ・打楽器は、マラカス・レインスティック・ウッドブロックスリットドラムを新たに加えた。打楽器を叩くバチ（マレット）を、令和6年度にドラムサークルを開催した際に、講師の先生より紹介いただいた先端がウレタンでできたバチ（マレット）を用意し、小さい子どもでもより安全に叩くことができるよう環境を整えた。
- ・昨年、園庭で行った3月のドラムサークルは振り返りをもとにホールで行い、より子どもと保育士とファシリテーターの顔が見える中、行うことができた。また、ドラムサークルの対象のクラスは3歳児から5歳児のクラスごとに行ったが、その周りで1歳児と2歳児も一緒に参加できるように会場（環境）の設定を行った。

#### 活動②に対して

- ・和楽器の制作は「鳴子」を選び、廃材の「かまぼこの板」を用意した。
- ・実際に本物の鳴子を持ち、音の聞き比べができるようにした。
- ・園に既存の小太鼓に対して、新たに和太鼓の長胴太鼓をとり入れ音楽に合わせて叩いたり、叩く面や、太鼓の胴に触れることで感触を味わえるようにした。

#### 活動③に対して

- ・自然の音を集めるための集音マイク（ガンマイク）を取り入れた。
- ・収録した音や、子どもの声を録音したり、重ねることができ、子どもも保育士も音を録音する経験が容易にできるように卓上タップルーパーを取り入れた。まずは職員が扱いを覚えられるように接続のしかたを可視化した。

#### 活動④に対して

- ・子どもが踏むとドレミファソラシドのそれぞれの音が出るミュージックパットや、叩くと音階の音が出るドレミパイプを取り入れた。
- ・ミュージックパットは、幼児クラスでは園に既存の運動器具と組み合わせた活動を取り入れたほか、乳児クラスでは小さなコーナーに設置して、パットを踏んで音を出す楽しみを子どもが感じられる環境を設定した。

#### 活動⑤に対して

- ・新たに電子ピアノを幼児クラスに設置し、法人園ですくわくプログラム以前より取り組んでいるリズム指導での内容を、子どもたちと職員がいつでも行えるようにした。また、年長児ではこれまで、保育者のものとしていた電子ピアノに、子どもが触れてよい時間を設けたことで友達同士の関りから「音」を楽しめるようにした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

活動①民族楽器に触れる。

- ・ 楽器棚が整備されたことで、子どもたちが自分から楽器を選びやすくなった。片付けがしやすくなったこともあり、別の楽器を選ぶ際に写真を見ながら片付けに行く姿があった。



- ・ トライアングルや木琴といった、園にもともとあった楽器にも触れる機会が増え、ある子どもはトライアングルでは紐の部分を持つことで、きれいな音が出ることに驚いていた。



- ・ 多くの楽器に自由に触れる経験を経て、職員で振り返りを行い、子どもたち同士の関りや、楽器を鳴らしあう楽しみを感じられるにはどうしたらいいかアイデアを出し合ったところ、ステージを使って演奏会をすることにしました。



- ・ 異年齢での楽器遊び。年上児の楽器の使い方をよく見て、楽器の演奏をまねているようでした。



- ・ドラムサークルは3歳から5歳までがクラスごとに行ったほか、幼児クラスの周りで1歳・2歳も参加できるように会場を設定した。そうしたことで、大きな音に驚くものの1歳児や2歳児も楽器をたたき楽しみを一緒に味わい、ファシリテーターの動きで同時に音を止めるなど年上児の姿や保育士の姿を見て楽しむことができた。



- ・幼児クラスになると、次第に友達と輪になって太鼓をたたき、言葉ではなく目と耳で、友達と音と呼吸を合わせて叩く姿が見られていた。最後は、全クラスのもっと叩きたい子どもたちと職員が集まり大きな輪になり太鼓をたたき、講師の方の代わりに子どもたちの中心に立ちファシリテーターとなりドラムサークルをまとめる姿もありました。



- ・職員もドラムサークルに加わり、みんなで音を合わせる気持ちよさを子ども達と味わうことができた。



## 活動②和楽器に触れる

- ・5歳児 ぞう組はかまぼ板を利用して、ヤスリがけを行い手作りの鳴子を作った。作った鳴子で体を動かし、ソーラン節を踊った。本物の鳴子との音の違いを感じることができ、音の出る振り方などを子どもが体験し知ることができた。



- ・5歳児は長胴太鼓を含めた多様な楽器を用いて、身近な音に近い音はどれかなど話し合いながら音探しをしました。4歳児は発表会の劇中の効果音として適した音(力強い音)が、どの太鼓の音が近いか聞き比べて決めるなど活動に取り入れた。



### 活動③音集め・音を重ねて遊びに取り入れる。

- ・ 卓上タップルーパーを用いて音や友達の声を録音して遊びにつなげていく。
- ・ はじめは子どもたちが自由にカラオケ大会や声を録音する楽しみを十分に味わい、次に声を重ねることができることで「かえるの歌」に合わせ、歌を録音して遊ぶことを楽しんだ。



### 活動④身体を動かして音を出す楽しみに触れる。

- ・ ミュージックパットを用いて踏んで音が出ることを楽しみ、くり返し楽しめるように円にしてみたり、サーキットのようにコースに設置して体を動かして遊ぶ姿が見られていた。



- ・ メロディパイプは、はじめのうちは使い方がわからず、子どもたちが遊び方を考え様々な使い方をして遊んでいた。それぞれのパイプが音階になっており、その異なりに気づきくと、床を叩いてメロディを奏でていた。



### 活動⑤電子ピアノをクラスに設置し、子どももピアノに触れる。

- ・ 毎月、講師を招いて自園の取り組みとして行っているリズム指導の内容を、担任がいつでも子どもたちと行えるようにした。また、「なかよしの音」（和音）を保育士が弾き、和音や不協和音に子どもが気づくことができるように活動した。
- ・ 子どもがピアノに触れていい時間を設けることで、友達と関心を高めあったり、自分も触ってみようとしたり、音色を選びいろいろな楽器の音を楽しんでいた。



### 活動⑥音に関わる玩具に触れ、自由に遊ぶ（乳児）

- ・電子音ではない木やグロッケンなどの音などに触れることで小さな音にも耳を傾けられるように子どもたちの楽器に触れる様子を観察した。はじめ、楽器を重ねて遊んだり、大きな玉を集めたりしていたが、保育者が鳴らし方を見せたりすることで、友達と一緒に同じ遊びをする姿が見られるようになった。



### その他：すくわく報告会

- ・クラスの『音』についての取り組みを計画、活動、振り返りを書面と写真で報告をする「すくわく報告会」を定期的に行い、各クラスの次の取り組みのアイデアを出し合ったり、行事の集会に民族楽器を取り入れたり、職員が『音』についての取り組みを意識して計画し、楽しみながら進めることができている。



<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ **1歳児** 鈴がついた玩具を手にして音を鳴らすと「おまつりみたい」と保育士に伝える。聞こえた音について何かに例えて伝えられることに驚く（1歳 担任）
- ・ **5歳児** 手作りの鳴子。ヤスリがけを行う子ども同士の会話。「木のゴミ（けずりかす）がつくの嫌な人はパンパンすればいいよ」「絵の具使う時のTシャツ着ればいいんじゃない?」と身支度を行う。自分たちで何が必要かを考えることができることに成長を感じた。（5歳 担任）
- ・ **2歳児** 楽器に触れて遊ぶ。金属の楽器は音が大きく他児から「うるさいっ」と言われてしまう。それまで、強くたたいていたところから、叩く強さを調節し音が大きくならないように工夫していた。（2歳 担任）
- ・ **2歳児** トライアングルを握りしめてたたき、なかなかいい音が出ない。それをうまくいっていないと感じたようで保育士に「これどうやってやるの?」と聞き、保育士が紐を持ってトライアングルを叩くことを見せると、本児も嬉しそうに一緒に叩くことを楽しんでいった。（2歳 担任）
- ・ **0歳児** 玉を入れて転がすスロープ玩具で遊ぶ。保育士がくり返し遊ぶ姿をみせることで真似をするところから、玩具の楽しみに触れその後保育士が行っていたのと同じく何度も繰り返し球を転がして遊んでいた。（0歳 担任）
- ・ **2歳児** 子どもたちが楽器で遊ぶなかで少しでも子どもたちの気持ちが盛り上がりげだと「動物のぼうしかぶってみる?」と伝えると「かぶる～」と、帽子をかぶり楽器を奏する。それぞれの動物になりきって楽器を楽しむことができていた。（2歳 担任）
- ・ **3歳児** 楽器遊びに意欲。外遊び後に楽器遊びを提案すると「え?楽器?」と子どもたちが早々に片づけを終わらせて「かたづけおわったよ!」「もうがっきはじまっちゃった?」と意欲を見せている。最後にクラスみんなで「あわてんぼうのサンタクロース」を演奏し、活動に対して満足そうな子どもたちだった。（3歳 担任）
- ・ **5歳児** 卓上タップルーパーを子どもたちが扱って。担任も初めて使ったもので「ここ押してみようよ」「おー全部の音がかさなった!」「すごいねー」子どもたちと盛り上がりながら使い方を一緒に学びました。（5歳 担任）
- ・ **4歳児** 発表会の劇中の効果音を考える「かべが出てくるときの音で、どれがいいと思う?」と問いかけると、ほとんどの子どもが「大太鼓がいい」と言う。シンバルの音が気に入った子が、実際に音を聞いてみると、すぐに大太鼓に賛成していた。より強い感じを出すために、大太鼓に合わせて「どすこい!」と掛け声をかけることにした。（4歳 担任）
- ・ **5歳児** 卓上タップルーパーで音楽作り。自分たちの録音した音や声に少し恥ずかしさもありながらも「いいね～」「少し恥ずかしいけどいい音かも」と音に耳を傾け感想や思ったことを話しあいながら楽しんで作業していたのが驚き、子どもたちに対して「すごいね～」ということが多くなってしまった。音の種類が増やしていけるような声掛けをしていけばよかった。（5歳 担任）

・ **4歳児** ミュージックパットを踏み鳴らして遊ぶ。2名の子どもが音階順で一列に並べ始め「ドレミファソ…」と言いながら渡っていた。保育士がきらきら星の一節通りに並べると「きらきらひかる…」と歌いながらパッドの上を歌う姿があった。その後は自分たちで並び変えを楽しんでいた。(4歳 担任)

・ **4歳児** ドラムサークルに参加する。昨年度経験している子どもは「ぱんださんの時もやったよね！」とよく覚えており、太鼓の音が聞こえてくるとすぐに惹きつけられ、自分達の時間が来るまで楽しみに待っていました。「手が痛いー！」と言いながらも激しく叩いて汗をかく子ども達！夢中で楽しむ姿に担任も自然と笑顔になりました♪(4歳 担任)

・ **5歳児** ドラムサークルに参加する。リズムの中には、なかなか難しいリズムもありましたが、「違うよ」「ふざけないで」などと言う子は全くおらず。合わなくてもみんなで叩くと楽しい！という音楽の楽しさに気づく子どもたちでした。昨年は楽しみつつも「音うるさい」という子もいたのですが、今回はみんなで楽しめたことに成長を感じました。(5歳 担任)

## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・ ドラムサークルでは先生が「どこが楽しかったか教えてくれる？」と聞いた場面で手を挙げ答えた子どもが「音が揃ってた」という。その子は普段は環境の変化や前に出ることを嫌う子であり、今回も無理強いすることはしなかった。本人の感想を聞いて、音を鑑賞することを楽しんでいたのだと気づいた。

”参加しない”という選択も、本人なりの楽しみを見つけていたのだと気づいた。

(5歳 担任)

・ 昨年度に引き続き2回目のドラムサークルだったが、保育士としても学ぶ部分が沢山あり、子どもたちに「させる」のではなく「保育士自身が楽しむ」ことの大切さをあらためて感じた。同じようにすすめていくことは難しいが、学んだことを生かした保育とはどんなことかを他職員と話し合ったり、感じたことを共有していけると良い。(4歳 担任)

・ 2年目のすくわくプログラムを通して、職員が「音」をテーマに、「やってみたい活動」を幅広く取り組むことができた。職員が環境を含めてこういった活動にしていくかを考えクラスでの活動や集会など、活動に取り入れ子どもたちにとってこういった興味につながるかを考え保育を行ったことが、大きな効果があったと感じています。2年目のドラムサークルも、子どもたちに言葉以外の伝え方で子どもたちの目を輝かせられることに他の職員とも学びにしていきたいと思います。